

## 朝鮮石人像を訪ねて (33)

深田 晃二

今回は通信238号(訪ねて7)と259号(訪ねて27)で報告した上野の東京国立博物館を再訪する事が出来たので新しい状況を報告する。また通信265号(訪ねて31)の奈良西ノ京の公園も訪れたので記事の補強を行う。

### ★ 東京国立博物館 ★

通信259号(訪ねて27)で石人像や望柱石が博物館裏庭に放置されているという記事を書いた。その文の最後に、無神経に扱っているのではないかとの疑念と共に、「あるいはこの状態は一時的なもので、撮影から既に5年が経っているので、改善されて現在は本来の姿で展示してあるのだろうか。」と書いた。今年10月初旬(2014/10/7)に東京国立博物館を再訪できたので、6年目の状態を確認してきた。



2008/8/25 東洋館屋外

拡大図

2014/10/7 東洋館入口脇

まず上の写真を見て頂きたい。左2枚は6年前の屋外(隠れているが獅子様の石造物は2体あった)、右は今年の東洋館入口に設置された石造物である(両サイドに2体設置してある)。館内の案内人に聞くところの石造物は中国から来た物との事であった。



2008/8/25 東洋館屋外 文人像

文人像についてはどうか。6年前は立ててあるのは左の写真(同一像)の1体だけであった。現在は横に並んで2体、道を隔てて石羊と向かい合う様に立てられている。

文人像は TC-130 と



2014/10/7 文人像 (江原道)

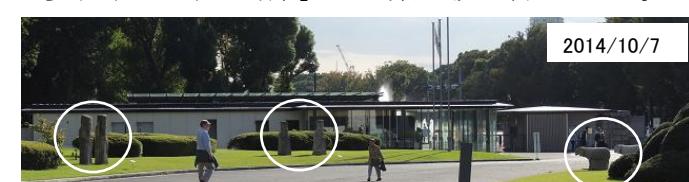
TC-131、石羊にはTC-132とTC-133の資料番号が振られ、どちらも江原道(18~19世紀)の物と書いた案内板がある。

次に、6年前には横たわっていた文人像はどうか。



2014/10/7 文人像 (平壌)

比較的彫りの深い文人像2体も同じ空間に立ててある。多分これらが寝せてあった物であろう。但し、この2体には由来が明確ではないからか資料番号が付けてなく、「伝 朝鮮 平壌(18~19世紀)新田愛祐(aisuke)氏寄贈」とだけ案内板に書いてある。



2014/10/7

本館側から入門ゲート側を見たのが上の写真で、左2体が平壌石像、真ん中が江原道の石像2体、道を挟んで右端が石羊2体である。

結論的には6年前は一時的な仮置き状態だったことになる。博物館の処置(放置)にクレームを付けたことは結果的に嬉しい誤解だった様である。



望柱石や長明灯は現在も屋外で横たえてあるがいつの日か正式に立てて



石羊についても現在は同様に正面入門ゲートから本館へ向う道沿いに目に付く様に設置されている。

